

京都精神保健福祉士協会

きょうと通信

NO.88



2011年10月発行

事務局：医療法人栄仁会 宇治おうばく病院内

〒611-0011 宇治市五ヶ庄三番割 32-1

TEL 0774-32-8399 (直)

FAX 0774-32-8399 (直)

e-mail office@kyo-psw.org

HP <http://www.kyo-psw.org/>

【10月例会のお知らせ】 *会場が変更になっています！

日時： 2011年10月28日(金) 18:30～21:00

会場： 護王神社 大会議室（鳥居をくぐって右奥の建物）

<http://www.gooujinja.or.jp/>

〒602-8011 京都市上京区烏丸通下長者町下ル桜鶴円町（京都御所蛤御門前）



- ・地下鉄烏丸線 丸太町駅下車 北へ徒歩7分
- ・市バス51系統 烏丸下長者町停 下車すぐ

テーマ： 支援者のメンタルヘルス～自分のストレス傾向を知ろう～

講師： 松田 美枝さん（京都文教大学）

以前ご案内していたカフェレストラン「あむりた」での開催ができませんでした。
謹んで訂正しお詫び申し上げます。

10月例会では、「支援者のメンタルヘルス」をテーマに、日頃気づかないうちに抱えている自分の思いや悩みに向き合ってみて、どう対処したらいいかを考えるひとときを持ちます。

ちょっとした自己評価表やリラックス運動も準備しています。

みなさんのからだところがほぐれてほっこりしてもらえる企画です。ご参加、お待ちしております。

(10月例会担当)

【共催研修会のお知らせ】

京都精神保健福祉士協会・日本精神保健福祉士協会京都府支部の共催です。

日 時：2011 年 11 月 19 日（土） 14:00～17:00
場 所：京都産業会館（京都市下京区四条通室町東入）7 階 第 3 研修室
<http://www.ksk.or.jp/sub5.htm>
＊ 7 階の廊下は暗くなっています。真ん中辺りの部屋です。
市営地下鉄烏丸線「四条」・阪急京都線「烏丸」下車
四条通地下 26 番出口産業会館直結
テーマ：～精神保健福祉士としてあなたはどうかかわりますか？～
成年後見制度とソーシャルワーク パートⅡ
講 師：中川 るみ 氏（社会福祉士・精神保健福祉士）
「みどりの森」社会福祉士ファーム・アミューズメントバリアフリー協会
（社）日本社会福祉士会成年後見受任研修修了 1 期生
京都家庭裁判所後見人受任登録（2000 年～2004 年）
（京都社会福祉士会推薦）
当協会倫理委員会委員（2006 年～2010 年度）

11 月例会は京都精神保健福祉士協会と日本精神保健福祉士協会京都府支部との共催で、昨年 12 月に続く第 2 弾として開催します。

成年後見制度では、判断能力が低下した方の権利を守るために、後見人等が本人に代わって判断し契約などの法的行為を行う権限を与えられます。一方でわたしたち精神保健福祉士は、本人のあらゆる可能性を信じ、自己決定できるよう支援するソーシャルワーカーです。

精神保健福祉士が後見人等を受任したとき矛盾を抱えることにならないのか？昨年の研修でわたしたちは深く考えさせられることになりました。

今回は「みどりの森」社会福祉士ファームの中川るみ氏をお迎えして、「成年後見制度とソーシャルワーク」をテーマに再度研修を行います。中川氏は現在、多職種で編成されるチームによる後見活動を行っておられ「病気や障害の特性とともに暮らしていけるような」支援を実践されています。

そもそも成年後見制度とは何か？ わたしたちはどうかかわることができるのか？理念にもとづくソーシャルワーク実践とは？ 多様な後見の実例をお聴きしながらともに考える機会にしたいと思います。多くのみなさんのご参加をお待ちしています。

（共催研修担当）

【12 月例会のお知らせ】

日時：2011 年 12 月 8 日（木） 18:30 ～21:00
会場：京都府立総合社会福祉会館ハートピア京都 第 5 会議室
テーマ：「障害者自立支援法がもたらしたもの
～私たちは障害者のニーズに沿った支援ができているのか？」
演者：羽鳥 恵一 さん（移行支援 ワークネットきょうと）
瀬端 万起 さん（継続 B 型 サリュウ）
知名 純子 さん（まるいクリニック）

障害者自立支援法が施行されて 5 年。利用者負担の問題や施設体系移行などの課題を抱えながら経過したこの間について、演者それぞれの立場から振り返ります。精神障害者の思いや願いは叶えられているのでしょうか？12 月例会では各現場の現状と課題を皆さんと共有しながら学びを深めたいと思っていますので、お気軽にお越しください。

(障害者自立支援法委員会)

【第二弾 お知らせ】 2011 年度京都精神保健福祉士協会初任者研修

(社団法人日本精神保健福祉士協会 生涯研修制度 基幹研修Ⅰ)

皆さまお待たせいたしました、2011 年度初任者研修の詳細が決定いたしました。二日間の研修内容は下記のとおり充実したものとなりました。また、一日目は会場の都合でとても豪華な会議室での開催です。

現在、委員会では詳しいご案内と申込書のお届け準備をすすめているところです。

○ 受講対象の 2009 年度・2010 年度・2011 年度入会の皆さま、郵送でお送り致します。

11 月 1 日にお届けの予定です。ピンクの協会封筒です！即開封・お申込下さいね！

○ 受講対象でない会員のみなさま、メールにてご案内をさせていただきます。

対象年度に受講の機会を逃された方、入会後何年も経っているけれど受講してみようかなと思われる方、日本協会への入会をお考えの方、どうぞこの機会に受講下さい。

まずは、メールのチェックをお願いいたします！

日時：2012 年 1 月 21 日（土）～22 日（日）

会場：京都市国際交流会館 特別会議室および研修室

プログラム：

第一日目（基幹研修Ⅰ） 2012 年 1 月 21 日（土）10:00～18:00

「日本精神保健福祉士協会の役割と課題」 講師：中川 浩二 氏

（日本精神保健福祉士協会 理事・和歌山県支部 / 和歌山県障害福祉課）

「精神保健福祉士の専門性Ⅰ」～価値と視点～ 講師：荒田 寛 氏

（日本精神保健福祉士協会 相談役・滋賀県支部 / 龍谷大学）

「精神保健福祉士の実践論Ⅰ」～大切にしていること～

シンポジスト：巖 弥生子 さん（川越病院）

西村 智美 さん（生活訓練施設アスロード）

宮崎 彰造 さん

（京都市北部精神障害者地域生活支援センター らしく）

コーディネーター：小野 紀代子さん

（就労支援センターヒューマンプラス）

「グループワーク」

第二日目（京都協会オリジナル） 2012 年 1 月 22 日（日）9:30～18:30

「記録の書き方」 講師：西邑 章 さん（京都府丹後保健所）

「面接技術」 講師：佐藤 純 さん（京都ノートルダム女子大学）

「京都精神保健福祉士協会の成り立ちと活動について」

担当：西村 睦美 さん（当協会会長・川越病院）

「精神保健福祉士の倫理」 担当：倫理について考える委員会（当協会）

* 基幹研修Ⅰの受講については、「第一弾お知らせ」（きょうと通信 87 号掲載）をご覧ください。

* 受講された皆さまには、修了証書をお渡しいたします。

【～東日本大震災報告会1～】

「福島県相双地域の現状と挑戦 ～全国の皆さんに伝えたい、現場の生の声～」

3月11日の東日本大震災以降、福島県では原発から半径30km圏内の精神科医療・福祉機関が休止を余儀なくされ、現地の利用者と家族、精神科医療・福祉機関スタッフは苦難に直面することとなってしまいました。

沿岸北部の相双地域では、専門職がチームを組んで臨時の精神科を開設・運営したり、仮設住宅を訪問・支援しながら、治療中断した通院患者や精神的不調を訴える地域住民に日々、対応されています。

今回はその中心メンバーである御二方から体験をお聞きできる貴重な機会です。

皆さん、ぜひお誘い合わせのうえご参加ください。

日時：2011年11月11日（金） 18:45～20:45

会場：ハートピア京都 第5会議室

（地下鉄烏丸線「丸太町」駅下車 5番出口を出てすぐ）

報告者：須藤康宏氏（相馬フォロアーチーム、精神保健福祉士・臨床心理士）

米倉一磨氏（元雲雀ヶ丘病院、精神科認定看護師）

* 京都精神保健福祉士協会と日本精神保健福祉士協会京都府支部の共催となります。
（災害支援検討委員会）

【7月例会報告】

日時：2011年7月22日（金）19:00～21:15

会場：ハートピア京都 第5研修室

テーマ：生きていることを見つめなおしてみよう

改め「“生きている”をみつめ、“生きる”を考える」

講師：中村 桂子 氏（JT生命誌研究館 館長）

参加者：24名

7月例会は生命誌研究館館長の中村桂子氏をお迎えし、お話を伺った。中村氏はまず、テーマを「“生きている”をみつめ、“生きる”を考える」と改められた。そして「科学者として蛙や蜘蛛、蝶といった生き物に徹底的にかかわりそこから生きるということを考えてきたが人間には直接かかわってきていない。精神保健福祉士という仕事が具体的にどのようなものなのか、まだすっきり胸に落ちていない。だからこれから話すことが果たして皆さんのお役に立てるのか、また60分間も聴いていただくことは苦痛ではないか」と恐縮されながらお話を始められた。

中村氏は、さまざまな生きものがひとつの生きものから誕生したことを表す扇型の一枚の絵、「生命誌絵巻」を紹介された。最初の生きものは38億年前に海の中で生まれた、その生きものが細胞分裂を繰り返す中さまざまな生きものが誕生し、その中に人類もある。つまり、すべての生きものは共通の祖先をもち、すべての生きものに38億年の歴史があり、すべてが「生命誌絵巻」であらわす自然の中で上下の関係なく仲間として生きている。人間は生きものであり、自然の一部であるということだ。

このことを基本に据えると現代のわたしたち人間の在り方にいろいろな疑問が出てくる。人間はときとして傲慢になり、まるで「生命誌絵巻」の外側にいるかのように、

上から目線で「地球にやさしく」などといって自然を支配できるような気になっているのではない。生きものが生きていくためには時間が必要で、その時々成長に必要な時間は省くことはできない。現代社会では何かと機械のように効率が求められるが、そのような生き方は究極「生まれてすぐに死ぬ」ということにはならないか。ホモ・サピエンスの誕生以来、「ヒト」はほかの生きものや過去や未来と変わりながらつながり、当然のこととして自分自身の一生とも変化しつつ、つながっている。さらに、ほかの生きものにはない「知」と「心」を持つ人間はとことん「生命」について考えなければならない。生きるには「ひたすら」「たくみに」「わきまえて」「よく」と四つあると教わったが、「よく」生きることができる生きものは人間だけだと、したがって「今ここにいる」「生きている」そのことを大切に話された。

中村氏の心配をよそに、お話はとても興味深く、精神保健福祉士が大切にすべき価値としておきかえることができるものだった。精神保健福祉士はときに傲慢になり支援という名のもとにクライアントに時間を迫り、かかわりのプロセスを省き、自らが定めたゴールへと導こうとしてしまうことがないか。人が生きるということにかかわり、支援することを仕事とする私たちもまた、同じ生きものとして存在しているのだ。

質疑応答の際、「脳死は生命の終焉なのか」との問いに「(個人的見解としては) 死はプロセスであり、個の問題であると考えているから、脳死を人の死とするのかということは意味がない。臓器移植のためには定める必要があるのだ。また「よく生きるとはどういうことなのか」という質問には「人によって様々な生きかたがあり、一概にこう、とは言えない。どのような生きかたをしたいのか、どのように生きていこうと思うのか、しっかり考えることからはじめよう」と「よく生きる」はわたしたち参加者の宿題となった。

生きづらさを持ちながら生きること、寄り添い、支援する私たち自身が、まず「生きている」を見つめ“生きる”を考える」その原点に立ち返ることのできた例会でした。

*「生命誌絵巻」は、JT 生命誌研究館の HP でご覧いただけます。

<http://www.brh.co.jp/>

(倫理について考える委員会)

【リレー職場紹介】

医療法人三幸会
就労支援センター ヒューマンプラス
栗森 和沙さん

「働きたい」「仕事がしたい」という精神障害者の方の就労移行支援事業所として、平成 20 年 11 月に京都市左京区の岩倉に「就労支援センター・ヒューマンプラス」を開設しました。

ヒューマンプラスでは、一般就労を希望する方に対して就労訓練を行い、就労に必要な知識や能力の向上を目指します。また、企業等での職場実習を通じて一人ひとりに合った職場への就職や、就職後も職場訪問を行い職場定着ができるよう支援しています。ご本人の「働きたい」という強い意志のもと、【施設内訓練→施設外訓練→職場実習→求職活動→就労前実習→就職】といったステップで就労に向けて訓練を行っていきます。就労訓練では主に高齢者施設の清掃やベッドメイキングの作業などを行っています。メンバー同士で相談をしながらその日の仕事を割り振り、リーダーを決めて互いにコミュニケーションを取りながら仕事に取り組んでいます。この他にもビジネスマナーやグル

ープミーティング、パソコン教室、体力づくり、食生活に関するプログラム等も実施しています。

就労に向けて一歩ずつ進んでいくとメンバーは「働きたいけれど、実際に働くとなるとまだ不安…」「実際の職場で今の自分がどこまで働くことができるだろうか…」と働くことに対して期待や不安など様々な思いを抱かれます。

障害者雇用を考えておられる企業も同じように期待や不安を抱いておられ、「どのように接したらいいのか」「どこまで仕事を求めてもいいのか」など両者の不安は尽きません。この両者の思いを少しでも軽減し、就職に一歩でも近づけるために職場実習や就労前実習を行っています。職場実習が互いに実のある機会となるよう、職場訪問や面談などを繰り返し行い、不安を解消していきます。

メンバーからは「不安が解消しました」「見に来てもらえるので安心」といった声が聞かれます。企業側からも「職員さんが来てくれるので安心する」といった声が聞かれるので、メンバーと企業をつなぐことは私たちが担うべき大切な役割だと実感しています。

就職された方が仕事の休みを利用して、近況報告をしに来られることがあります。新しい環境での不安を話されることもあります。それよりも仕事に対するやりがいの話を聞くことの方が多いような気がします。日々メンバーと共に歩んでいると、初めてお会いしたときと比べて、表情がいきいきと変化していつていることに驚かされます。レクリエーション等で写真を撮るのですが、見返してみると無表情だった方が、カメラ目線でニコリと笑顔を見せられるようになったのです。私はメンバーの表情の変化に喜びを感じています。また、メンバーの笑顔が就労支援の原動力ともなっています。

障害者雇用の道はまだまだ険しいのが現実です。「働きたい」と日々訓練に励んでおられる方が輝きを失わず、それぞれの「働く」という目標を達成できるよう、共に歩んで行きたいと思っています。目標達成には私たち事業所だけでは成り立ちません。支援機関や受け入れ企業等の連携・協力を大切にしながら、就労支援を行っていききたいと思っています。

【2011 年度 第 4 回 役員会開催報告】

日 時) 2011 年 7 月 27 日 (金) 19:15～22:45

会 場) 高木神経科医院 会議室 進 行) 大塚・物 記 録) 畚野

出席者) 上田・大塚・斉藤・西村・藤井・畚野・堀田・物・森田・渡辺

欠席者) 下村・知名

【2011 年度 第 5 回 役員会開催報告】

日 時) 2011 年 8 月 24 日 (金) 19:00～21:30

会 場) 高木神経科医院 会議室 進 行) 物 記 録) 大塚

出席者) 上田・大塚・斉藤・下村・知名・西村・藤井・堀田・物・森田・渡辺

欠席者) 畚野

概要報告を HP に掲載しています

→<http://kyo-psw.org/member/kapsw/yakuinkai.php?catid=15&blogid=2>

【東日本大震災支援活動】

被災地支援に行かれた方へお願いしていました「支援活動連絡票」は、第一弾の締め切り日(9月16日)までに16名の方からお寄せいただきました。

災害支援検討委員会にて内容とお渡し応援費について確認し、9月23日の役員会にて承認を受けました。16名の方々が延べ23回被災地支援に行かれ、9名の方の14回の活動に対し、総額66,000円の応援費をお渡しすることになりました。なお、支援活動応援費の受け取りを辞退された方もありました。

16名の皆さまには被災地での活動の様子や感じられたことなどをすこ〜しずつ「きょうと通信」でご紹介いただくことになりました。今号より連載です。どうぞ楽しみに！

また、12月には第二弾の募集を行う予定です。メールのチェックをお願いします。
災害支援検討委員会への、ご意見、ご要望などは事務局のメールまでお寄せ下さい。
(災害支援検討委員会)

～「災害支援」活動紹介 vol.1～

京都大学医学部附属病院 精神科神経科 加藤瑞枝さん

3月11日以降、同じ日本で生活する者として、対人援助を生業としている者として「何ができるのか?」「何をすべきか?」という疑問が重くのしかかり、あちこちで見聞きする「頑張れ」の文句、雑多な被災地支援の情報に時として違和感を覚えながら、分をわきまえ出来ることを、と僅かな募金をしたり、情報収集したり…。そのうち日々のあわただしさの中で「思い」は薄れ始め、ただどこか「息苦しさ」が残っていました。職場の理解や縁に恵まれ、福島県の会津(府心のケアチーム)と宮城県の東松島(日本精神保健福祉士協会)に赴く機会を得たのですが、この「息苦しさ」をなんとかしたい衝動に駆られたことも確かでしょう。被災された方と直接お話をし、被災した地を直接この目で間近に見て、現在、今までの疑問を見直しています。「分をわきまえ」と言っ
て自身の側からしか見ていなかった!「何ができる、何をすべき」ではなく「彼らは何を求めているのか?」「何が本当に必要なのか?」そういう見方をしてみよう!

PSW ならではの大切な視点を忘れていた!

現地でゆっくりお話をさせて頂いたお一人のことが脳裏をよぎります。彼は「被災者」である前に豊かな人生経験をお持ちの「生活者」でした。「息苦しさ」は続くも吸い込む微かな空気は前とは違います。

安東医院 畚野真木さん

私は日本精神保健福祉士協会の派遣で8月25日から8月31日まで宮城県東松島市に滞在しました。

東松島市へは仙台から高速バスで向かったため、震災の爪あとを感じることなく活動拠点である東松島矢本保健センターに入りました。そのため、随分復興しているのだなと勝手に思っていました。しかしながら沿岸部の地域を訪れた時、言葉にならない光景を目の当たりにしました。不自然なほど何もない土地、生活の匂いがまるでない土地。あの光景にしっかりとくる言葉は今でも見つかりません。そして、自分の故郷を奪われる、そして変わり果ててしまった故郷を見ながら生きていく…、その気持ちを思うと正直なんとも言えない気持ちになりました。

訪問先で出会った方々は辛い体験とこれからの不安を話されると同時に、新たな生活をするしかないという決意を語られていました。その決意には色々な思いが含まれているとは思いますが、私はその方々のお顔を見させてもらいながら、これから笑顔がたくさん出る生活であって欲しいとただそれだけを願いました。そして、そのために私に何ができるのかを考えさせられました。

遠く離れているから支援が出来ないのではなく、遠く離れているからこそ出来る支援が必ずあると思います。自分に出来る事を京都で続け、また東松島市へ行きたいと思っています。

京都民医連第二中央病院 精神保健福祉士
福田 寛さん

3.11 東日本大震災があった日は、とある診療所の3階で会議中でした。何か揺れている感じがするなあと思っていたのですが、携帯で状況チェックするにつれて想像を絶する規模の地震だという事が判明していきました。民医連ではこういった災害発生の際は、全国規模で当該地域に物資や支援部隊を送る規定になっており、翌日には第一次医療支援部隊が京都民医連から出発し、当院からも医師・事務・看護・技術職が、7泊8日コースで出発しました。



私は4月1日（金）～4日（月）の第三次支援隊に入って、現地入りしました。第一次部隊は京都から現地までずっと車で移動（1,000キロ以上！）だったのですが、私たちは新幹線で東京駅へ、その後、医薬品等を積んでレンタカーのワンボックスで500キロ離れた仙台市にある坂総合病院（立派な建物です）へ向かいました。支援者用レクチャーを受けた後、同病院の通所リハビリ室に毛布をひいて寝床を作り、夜12時過ぎに掲示される翌日の体制表（勤務表みたいなもの）を確認して就寝。シャワーは医局当直用に2本しかないため常時100名以上が寝泊まりしている中では大変でしたが、被災された方に比べれば天と地の差だと思いました。



支援初日は避難所になっている塩竈市公民館へ。医師・看護師・事務・薬剤師が一つのチームを作って、必要な薬剤を持参して診療スペースを設置、診療にあたります。私たち事務系スタッフは、（得意の？）問診と住所・氏名を白紙の紙に記載して医師につなぎます。（この診療内容を記載した紙を元に県にレセプト請求しますが、本人負担はありません）

その後、一部屋ごとにバイタル・チェックや体調伺いをして回りました。震災から二週間以上経過し

たこの時点でも、まだ入浴が出来ていないためせめて足浴をしようということになり、公民館横に展開している自衛隊からお湯をもらって足浴を実施しました。

翌日、早朝に近くの海岸へ行ってみました。拠点病院は高台にあるので津波の影響はなかったのですが、海岸沿いの住宅街は基礎だけ残して跡形もなく消え去り、船は転覆し、車は家の二階の壁面にぶら下がり、



電柱は折れ曲がり…と、爆撃を受けた後のような状況。

耳に聞こえてくるのは、海岸に漂流するコンテナが波に洗われている音のみで宅地が多いのに、全く生活音が聞こえない状況が印象的でした。

二日目も初日同様、医療支援をしましたが、この日は移動入浴用バスタブが届いたので地下の機械室にブルーシートで囲って浴室を作り、自衛隊からお湯を供給してもらい入浴をしてもらいました。今回の支援は短い期間でしたが、阪神大震災の支援とは違った大変さがありました。地域性もさることながら、喪失した地域のコミュニティをどう再生していくのか…が今後の課題になると思いました。



【事務局からのお知らせ】

会員の動向

[入会]

左賀 秀機さん（所属）株式会社 E パートナー（東京都港区）

芦田 幸子さん（所属）社会福祉法人保健福祉の会児童デイサービス パーチェ

石原 高記さん（所属）なし

今川 尚子さん（所属）北山通ソウクリニック

山本友香梨さん（所属）医療法人医誠会 東舞鶴病院相談室

[所属変更]

今井 昭二さん（新所属）京都福祉ネット 介護支援事業所今宮
〒603-8205 京都市北区紫竹西高縄町 22-1

Tel.075-494-2525/Fax075-494-2536

大機 卓文さん（新所属）医療法人亀廣記念医学会 関西記念病院
〒573-1137 大阪府枚方市西招提町 2198

熊取谷 晶さん（新所属）京都府精神保健福祉総合センター

野本 千春さん（新所属）医療法人社団ウエノ診療所 地域活動支援センターいろり舎

服部 小書さん（新所属）なし（旧）医療法人稲門会岩倉病院 医療相談室

林 剛 さん（新所属）株式会社 EL-LISTON ふくろう工房

日夏 一雄さん（新所属）なし（旧）医療法人栄仁会 おおわだの郷

前田えり子さん（新所属）京都市南保健センター

松岡 良樹さん（新所属）就労移行支援事業所 栄仁会ワークネットきょうと

松田 美枝さん（新所属）京都文教大学

〒611-0041 宇治市槇島町千足 80

Tel0774-25-2972/Fax0774-25-2409

[氏名変更]

大石 裕子さん（旧姓：西） （所属）医療法人三幸会 第二北山病院 相談室

[会員数] 平成 23 年 9 月 28 日 現在 356 名

2011 年度会員名簿の訂正とお詫び

<会員五十音順一覧>に以下の誤りがありましたので、訂正させていただきます。

P11 向井規子さん :【住所欄】(誤) 朱雀高田町 → (正) 壬生東高田町

【メールアドレス欄】(誤) @kyoto-kasainokai → (正) @kyoto-kosainokai

P20 山本真輝さん :【氏名欄】(誤) 山本真樹 → (正) 山本真輝

ご迷惑をおかけし申し訳ありませんでした。

会費納入のおねがい

2011 年度会費（きょうと通信郵送利用の方は郵送負担料 1,000 円）のお納めがまだの方は、2011 年度会員名簿に同封してお送りした振込み用紙にて、早々にお納め頂くようお願いいたします。協会は会費によって運営されています。まだまだ会費納入がお済みでない方が多数いらっしゃいますので、ご協力よろしくお願いします。

郵便振替口座番号 : 00960-7-120392

口座名義 : 京都精神保健福祉士協会

年会費 : 4,000 円 (※ 通信郵送負担料 : 1,000 円)

ほっと一息

歩き疲れ、ふらっと入った喫茶店。
メニューをみると珈琲だけしか書いていない。
コーヒーに詳しくないので少し困って、
名前の雰囲気ですぐに注文したところ、
登場したのがこのコーヒー。
飲んでも黒と白のバランスが変わらずとっても不思議・・・。

実はコーヒーはあまり好きではなく、
普段飲まないのですが、興味を持ったからか、
美味しく飲めたコーヒーでした。

【西山病院 栗林】



【編集後記】

今号は例会案内・研修案内や活動報告と盛り沢山です。ぜひ、ご参加ください！（中野）
急に肌寒くなりましたね。体調を崩さないように気をつけましょう。（栗林）